

読む



ビタミン

地域に根ざす工務店

・リフォーム店を元気にするビタミンです。

2019年1月号

今月のひと言

モノからコト、へ。

とされていますね。増え続けている海外からの旅行者も、定番観光やショッピングから、地方でコトを味わう旅などにトレンドがスライドしている、とも。

我々に身近でも「アキュラホーム、ミレニアル世代向けの提案型商品が好調」とネットに載っていました。

この住まいは「おうちでこんな“コト”がしたい!あんな“コト”がしたい!というコト消費を追求した商品」(同社)。自宅での過ごし方や、趣味・嗜好を重視する傾向にあるというミレニアル世代をターゲットに、暮らしを楽しむコースを提案しているそうです。

では「コト」って、なあに。

どこかへ出かけても、なにかを買っても、それが自分のオリジナルの値打ちにならないと、人と同じで終わってしまいます。人と同じでないことがミソなんですよね。

「一般的なものに留まっている限りは、誰にも模倣されてしまうが、特殊なものは誰も模倣できない。なぜかと言えば、他の人たちにはそれを体験していないからだ」(ゲーテ)

昔、むかし寺山修司は「書を捨てよ、町へ出よう」と言ってたっけ。

犬も歩けば棒にあたる。自分だけの体験を自分の感性で発信していれば、そのうちきっと同好者と出会えるでしょう。

あなた自身が体験を体験!少し時間はかかると思いますが「深い井戸ほど水はきれい」と言われます。

はんソク コツっぽ

新企画



骨壺、ではありませぬ。販売促進のコツとツボ、でございませぬ。私の販促人生約40年の中で5千枚以上、様々なツールのラフを書いてきました。それだけあれば、多少は役立つものもあると思います。ちょっとしたアイデアや見せ方等ヒントになればと、ご紹介していきますので真似できることはどんどん真似してくださいませ。

VOL.1

ターゲットを絞り、ターゲットが望むことをテーマに。

リフォームのボリュームゾーンは定年退職した60歳以上の中高年、だと思います。私自身も年齢はドンピシャで、お金は◎自分の今の暮らしを満喫すること◎安全に暮らすこと◎老後の蓄えのため、となります。となると、リフォームは大きなポイントになります。しかし、気に留めなくてはならないことがあります。幸いなことに母が元気なので、母のための暮らしも応援したいと思います。

そしてそれは、介護リフォームが視野に入る、ということに。しかし、介護って辛いイメージが強く、なかなか前向きに捉えられないという現実があります。

そこで、そのリフォームボリュームゾーンをターゲットにし、そしてそのターゲットが抱える悩みを前向きに表現したのがこの「楽チン介護のススメ」です。リフォームを売るのではなく、ターゲットを深く考えれば、きっと興味を持ってくれる、このような表現アイデアができると思います。



お詫び：今まで「販促の進め方」というシリーズをお届けしておりましたが、実は前回の回で終了でした。私自身がそれに気付かず、最終回のご案内をしませんでした。すいません。

不易流行

おかしいのか、なつかしいのか、人情味。

京都からバスで金沢に行こうとしてたときに、戦後のどきどきを生き抜いてきたというおっさんと出会った。もう20年以上も前のことだが、そのおっさんがあまりにもめっちゃくちゃだった。

おっさんは、わたしがベンチに座ってバスを待っていたときに話しかけてきた。「すげえ荷物だな行商人か?」。わたしのリュックには寝袋、テントが入っていた。「いえ、違います」「わかってるよ」。おっさんは大きな声で笑った。すでに酒臭かった。そしてわたしの横に座ると、「飲めよ」と袋から出した缶ビールを渡された。おっさんも金沢に行くらしく、同じバスだった。

乗り込んだバスは指定座席で、おっさんの席とは離れていた。しかし、しばらくすると、わたしの席にやってきました。

めっちゃくちゃな人

バスは走り出していたので、運転手さんに「歩きまわらないでください」と怒られていたが、逆に「運転中に集中しろ」と怒鳴り返していた。そして、わたしの隣の席に座っている女性に、「すみません、席変わってくれるかな?」と言って、席を交

プロムナード

換してもらった。なんだか面倒なことになったと思った。

おっさんは、わたしの横に座ってからしゃべり続けた。名前は亀二、双子の兄が鶴一、鶴亀で縁起がいい兄弟だったが、兄は、若いころに亡くなったらしい。亀二さんは、定住している場所はなく、住み込みで、



どこかの現場に行つて何カ月も働いて戻ってくる。ちよつど先週戻ってきたところだから、いまは金をたくさん持っている。これから、妹の住んでる富山に行く。若いころは、進駐軍のジープがやってくる道に横たわり、どこまで逃げずにいられるかという賭けをして、実際に轢かれてしまった奴もいた。他には、けんか、賭け事、女性のこと、もう話してる

戌井 昭人

ことがめっちゃくちゃだったが、わたしは、亀二さんの話にひき込まれ、聞いてるうちに、いつの間にか金沢に着いていた。

亀二さんは、金沢から鉄道で富山に行くのだが、「あんた、これからどうするの?」と聞かれ、朝まで駅のベンチで時間を潰すと言つと、「駄目だよ、そんなの、それに栄養ある飯も食つてねえだろ」と、焼き肉をおごってくれた。それから、遅いから明日富山に行くという事になり、一緒にタクシニーに乗って健康ランドに行くことにした。

するとタクシニーが走り出してすぐに、亀二さんは、運転手さんに向かって、「あんた、ドライブ(遠回り)してんじゃねえだろな!」と怒鳴っ

た。運転手さんは、「ドライブなんてしてねえよ」と怒りだし、けんかがはじまった。困った人だなと思いつつながら仲裁してたら、健康ランドに着いた。

料金はワンメーターだった。亀二さんは、「釣りはいらねえ、ごめん」と運転手さんに千円札を渡した。タクシニーを降りると、「知らない街に来たら、なめられちゃいけないから」と亀二さんは言う。なんだかめっちゃくちゃな理論なのだった。今度は、健康ランドで、とぼけたフリーで女風呂に入つていこうとして、従業員に止められていた。もうめっちゃくちゃだった。

翌日、朝ごはんを食べ、駅で引れるときに、わたしのポケットに一万円札を突っ込んで、「いいものでも食え」と言った。

(作家)

工務店さんがいるところなら...

日本全国東奔西走どこへでも!

呑んで騒いで時折仕事。



渡り鳥 旅日記

昨年末、横浜の地下街で崎陽軒のショーケースに激突。嗚呼、おバカは治らない。



六十七合目



“新しい時代が始まるぞ”の巻

「平成最後の・・・」、何かにつけこの言葉が毎日のように聞こえてきますねえ。

おいらもご多分に漏れず、自分自身の平成史を総括してみますと“反省と感謝”しかありません。

多くの方にご迷惑をお掛けし、多くの方に助けられた、のです。まあ、これも私の不徳のいたすところと私の人格によるものなのではないでしょうか？



▲渡邊社長と一献／関内



▲鱈、しめ鯖、なまこ酢。どれも旨し!

さて、話しは変わりますが過日1月10日、横浜は関内で介護リフォームを推し進めてこられたりリフォーム店の渡邊社長と一献しました。渡邊社長は「介護や介助が必要な方々に安心して暮らせる住環境を整えたい、そしてリフォーム産業をもっと社会に必要とされるように盛り上げたい」という強い志で、仕事をさらにステップアップしようと努力されています。

還暦を過ぎる頃から、平穩無事に人生を終わらせるようなスタンスの方も多いようですが、夢に向かってステップアップしていこう!という生き方、おおいに刺激されました。

実はおいらも、40年近くになる販促活動の総仕上げとして、新しい夢を掲げており(計画が決まればいずれまた詳細はご紹介させていただきます)、新年早々、中年親父二人はがぶがぶと酒を酌み交わし、おおいに盛り上がったのであります。

盛り上がる気持ちが覚めやらぬ14日、巷では成人式が華やかに行われました。おいらの末娘も成人で、友人からお借りした振り袖でいっちょまえなっこをしてました。まあ、感慨深いものがあります。

娘の幸せを願うのはもちろんなのですが、この子はどんな夢を描いているの? いや、そもそも夢はあるの? 夢ってなんだか分かってる? どう叶えるか知ってる? なんて口にはださない【?】が頭の中をぐるぐるよぎるのであります。こっちは老婆心でも、娘からすれば余計なお節介、とまたうざがられちゃうだろうし。

まあ、娘には娘の夢があり、幸せは心が感じるもので本人しか分からない。おいらは見守るだけだ。



さてさて、成人を迎えた若者たちにも、還暦を迎えた親父たちにも、新しい時代はやってくる。楽しく元気に、気張っていこか〜!